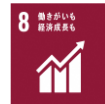


# 10年後も愛される商店街にするには どうすればよいか



福岡県立京都高等学校 今富 敬人・裏川 美優 班

## はじめに

私たちは、行橋市の後継者問題について研究した。私たちが商店街を選んだ理由は、人離れを解消し、行橋市の中心にある商店街が活性化することで、行橋市がよりよい町になるのではないかと考えたからだ。また、現在の日本はここ数年間でめざましい進歩を遂げており、より現実的に考えるために「10年後」とした。さらに、国連が定めたSDGsが、今から10年後の2030年までの達成目標であり、SDGsを念頭に置いて考えることができる。

## 方法

1. アンケート調査(行橋商店街について)
2. インタビュー調査  
(行橋市役所、新美夜古商店街復興組合、吉本蒲鉾店)
3. インターネット調査(行橋市の人口推移)



## 結果・考察

### 1 行橋商店街についてのアンケート (京都高校1、2年生対象)

#### 《アンケート結果》

1. 商店街にどのようなイメージを持っていますか？  
**Good**→思いやりがある、店主が優しい、おいしい店があるなど  
**Bad**→暗い、シャッターが多くさびれている、人が少ないなど
2. どのような店やイベントがあれば、新しく出来る新図書館への経路として商店街を通りたいと思いますか？

**Answer**→休憩、自習スペース、試験勉強が出来る場所、小さい子との「ふれあい活動」 など

### 2. インタビュー調査

#### ☆行橋商店街の現状☆

- ・店主が、自分の店のことで精一杯などの理由から**イベントの運営**に関わっていない
- ・そもそもイベントが集客につながっていない
- ・昔行われていた、新たにお店を出したい人に市が援助金を出す「**チャレンジショップ制度**」が今は行われていない



一番の問題である「空き店舗が減らない」というものが解決されない

・若者の認知度が低い  
→幼いころから商店街を身近な存在にすることで大人になってからの固定客化に繋がる。

・商店街に無い商品もある商品も、ショッピングモールで揃うため、商店街に人が来なくなった。

・アンケート調査の結果から、商店街の雰囲気をよくする必要がある。

### 3. インターネット調査

行橋市の現状として「**人口は年々増加**」

しかし！！

商店街の来客数は以前から**半分以上に減少**

## 提案

### 1. 現在あるフリースペースを活用する

→ アンケート結果から、勉強をしたり交流の場になったりするようなフリースペースがあれば利用するという意見が多かったため、フリースペースを整備して活用する。

例. 勉強の教えあいの場として利用  
京都高校文化部や、付近の幼稚園、保育園の作品展示など

### 2. 商店街の中にスタンプラリーを設置する。

→ 親子連れに楽しみながら、商店街の良さを知ってもらう。

商店街のスタンプとスタンプラリーカードを作成し、商店街の中に設置する。

### 3. ポイントカードを作る

→ 商店街により多くの人に来るように、商店街のお店と商店街の周りのお店で相互に活用できるポイントカードを作る。  
 商店街でためたポイントは商店街以外のお店で使え、商店街以外のお店でためたポイントは商店街で使える様にし、商店街と、その他のお店を連携させることで商店街への集客を図る。

## 今後の課題

実際にスタンプラリーとポイントカードを実践した場合、商店街にどのような効果・利益が現れるのかを検証していく必要がある。また、提案して終わりではなく、商店街と協力し、続けていく必要がある。

